

出資団体台帳

出資団体名	30.一般財団法人高山市体育協会
-------	------------------

所管課	スポーツ推進課

1. 出資団体概要 (令和6年4月1日現在)

①法人分類	公益・一般財団法人			(		)
②業務分類	教育・文化			(		)
③主な活動範囲	市内規模			(		)
④所在地	高山市中山町600番地					
⑤設立年月日	平成5年7月25日					
⑥従業員数	役員	(常勤)	0 人	(非常勤)	26 人	
	正社員	(常勤)	7 人	(内出向)	0 人	
⑦役員等	役職名	氏名			市所属・職位	
	代表者					
	役員					
⑧資本金		120,194 千円				
	出資者	資産種別	出資額	出資割合		
	高山市	出えん金	46,000千円	38.3%		
	他自治体			0.0%		
	その他	寄附金	74,194千円	61.7%		
	【備考】					

⑨設立目的			
定款に掲げる主な事業内容		現在の実施の有無	主な受益者
市民の健康づくりの推進及びスポーツの普及促進		実施 理由 ()	市民
スポーツの指導及び普及に関すること		実施 理由 ()	市民
スポーツの啓発及び宣伝に関すること		実施 理由 ()	市民
公の体育施設等の維持管理及び運営に関すること		実施 理由 ()	施設利用者
高山市スポーツ少年団の支援に関すること		実施 理由 ()	市民
公益財団法人岐阜県スポーツ協会及び地区スポーツ協会との連絡調整に関すること 等		実施 理由 ()	地域
		理由 ()	
		理由 ()	
		理由 ()	
		理由 ()	
		理由 ()	
⑩地域の関わり	市内の主なスポーツ団体を統括し、スポーツ振興につながる事業を展開している。		
⑪市民の関わり	各種スポーツ団体と連携し、スポーツ教室を開催するなど、広く市民へのスポーツの体験機会の提供を行っている。		
⑫経緯			
出資時の状況	H5 高山市体育協会が財団法人化する際、財務基盤強化のため市が26,000千円出えん		
その後の経緯	H7 更なる財務基盤強化のため市が20,000千円追加出えん		

2. 事業概要

①事業	②市事業	③種別	④業務内容、状況、課題等 (施設がある場合は、施設ごとの状況、公共施設等総合管理計画における方針を記入)	⑤事業収支	⑥定性的評価		
					市による 関与の必要性	民間による 代替性	事業の 採算性
高山市指定管理業務	○	指定管理事業	①飛騨高山ビッグアリーナ <u>継続</u> スポーツ施設の管理運営 LED改修工事に伴う使用停止により、利用者数・ 使用料収入が減少	黒字	有	無	無
			②高山市屋内軽スポーツ場 <u>継続</u> スポーツ施設の管理運営 利用者数の減少	黒字	有	無	無
			③八幡屋内ゲートボール場 <u>廃止</u> スポーツ施設の管理運営 利用者数・使用料収入ともに前年と同じ水準で推移	黒字	有	無	無
			④松倉屋内ゲートボール場 <u>廃止</u> スポーツ施設の管理運営 利用者数の減少	黒字	有	無	無
			⑤高山西スポーツ・地域交流会館 <u>継続</u> スポーツ施設の管理運営 利用者数・使用料収入ともに前年と同じ水準で推移 駐車場の増設、冷房設備の設置	黒字	有	無	無
			⑥中山公園野球場 <u>廃止・新規</u> スポーツ施設の管理運営 利用者数が増加 施設の老朽化等により改修が必要	赤字	有	無	無
			⑦中山公園陸上競技場 <u>継続</u> スポーツ施設の管理運営 三種公認改修工事に伴う使用停止により、利用者数 ・使用料収入が減少 施設の老朽化等により改修が必要	赤字	有	無	無

		⑧中山公園管理事務所 ㊦ <u>廃止</u> スポーツ施設の管理運営	赤字	有	無	無
		⑨大八グラウンド ㊦ <u>継続</u> スポーツ施設の管理運営 利用者数が増加 R6サッカー場の新設	黒字	有	無	無
		⑩南部グラウンド ㊦ <u>継続</u> スポーツ施設の管理運営 利用者数・使用料収入がともに減少 宮バイパス整備に係る用地買収による改修	黒字	有	無	無
		⑪岡本テニスコート ㊦ <u>継続</u> スポーツ施設の管理運営 利用者数が増加 駐車場の拡張	赤字	有	無	無
		⑫中山テニスコート ㊦ <u>継続</u> スポーツ施設の管理運営 利用者数・使用料収入がともに減少 駐車場の拡張	黒字	有	無	無
		⑬高山市相撲場 ㊦ <u>継続</u> スポーツ施設の管理運営 利用者数が減少	赤字	有	無	無
		⑭中山公園 ㊦ <u>継続</u> 公園施設の管理運営 使用料収入・委託料収入ともになし		有	無	無

2. 事業概要

①事業	②市事業	③種別	④業務内容、状況、課題等 (施設がある場合は、施設ごとの状況、公共施設等総合管理計画における方針を記入)	⑤事業収支	⑥定性的評価		
					市による 関与の必要性	民間による 代替性	事業の 採算性
スポーツ教室等受託事業	○	受託事業	加盟団体の協力のもとクライミング・弓道・アーチェリー・テニス・ソフトバレー等の初心者教室を開催 飛騨高山ビッグアリーナトレーニングルーム登録講習会を職員により実施	赤字	有	有	無
市民健康マラソン		団体事業	勤労感謝の日(11月23日)に中山公園陸上競技場を中心会場とし、幼児から社会人まで市民1,500名ほどの参加。48回目を迎える伝統的事业で秋の風物詩となっている。	赤字	無	無	無
市民登山クラブ		団体事業	市民参加者20名を募り、飛騨山岳会の協力のもと、クラブ活動のなかで登山装備や体力づくりの講習・実践登山講座を行い、7月第4土曜日に市民登山を実施。今年度は、乗鞍岳に登頂した。	赤字	無	無	無
市民スポーツ大会		団体事業	体育協会加盟団体による、各種目競技の市民を対象とした大会を開催。今年度39回目	赤字	無	無	無
市民駅伝大会		団体事業	市町村合併時に大野郡より引き継いだ大会。10月第4日曜日に高山市立宮中学校を中心会場とし、小中学生・一般の駅伝大会を開催。20回目を迎える。	赤字	無	無	無
ビッグアリーナ開放事業		団体事業	毎月無料開放日を定め、19時から21時30分の間ビッグアリーナを無料で、卓球、バドミントン、軽スポーツに開放している。	赤字	無	無	無
飛騨地区スポーツ大会・県民スポーツ大会への選手派遣		団体事業	高山市代表選手の大会への派遣ならびに選手強化・支援。競技力向上を目指す体育協会の主要な事業である。	赤字	無	無	無
全国大会出場選手激励事業		団体事業	全国大会に出場する団体・選手へ激励金を交付し、大会に向けての士気の高揚に努めている。	赤字	無	無	無
加盟団体共催事業		団体事業	加盟団体が広く市民に呼びかけ、競技力向上のため開催する大会の共催	赤字	無	無	無
表彰事業		団体事業	表彰規定によりスポーツ功労者および優秀な成績を挙げた選手・団体等の表彰	赤字	無	無	無
スポーツ少年団本部事業・助成		団体事業	高山市スポーツ少年団本部活動の支援業務を行い、スポーツ少年団活動の充実と発展に向けた支援を行う。	赤字	無	無	無

3. 財務状況

(1) 貸借対照表			(令和2年3月31日現在)			(令和3年3月31日現在)			(令和4年3月31日現在)			(令和5年3月31日現在)			(令和6年3月31日現在)		
項目			平成31年度 第 期		令和2年度 第 期		令和3年度 第 期		令和4年度 第 期		令和5年度 第 期		令和6年度 第 期				
			決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減			
資産の部合計			A	161,438 千円	▲2.8 %	160,136 千円	▲0.8 %	165,281 千円	3.2 %	165,307 千円	0.0 %	179,675 千円	8.7 %				
	流動資産	B	38,754 千円	▲8.8 %	37,925 千円	▲2.1 %	43,342 千円	14.3 %	43,368 千円	0.1 %	56,881 千円	31.2 %					
	固定資産	C	122,684 千円	▲0.8 %	122,211 千円	▲0.4 %	121,939 千円	▲0.2 %	121,939 千円	0.0 %	122,794 千円	0.7 %					
	繰延資産		0 千円		0 千円		0 千円										
負債の部合計				5,780 千円	▲12.1 %	5,412 千円	▲6.4 %	6,070 千円	12.2 %	6,219 千円	2.5 %	18,873 千円	203.5 %				
	流動負債	D	5,780 千円	▲12.1 %	5,412 千円	▲6.4 %	6,070 千円	12.2 %	6,219 千円	2.5 %	18,873 千円	203.5 %					
	(うち借入金)	E	(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)						
	固定負債		0 千円		0 千円		0 千円		0 千円		0 千円						
	(うち借入金)	F	(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)						
純資産の部			G	155,657 千円	▲2.5 %	154,724 千円	▲0.6 %	159,211 千円	2.9 %	159,816 千円	0.4 %	160,802 千円	0.6 %				
	資本金		120,194 千円	0.0 %	120,194 千円	0.0 %	120,194 千円	0.0 %	120,194 千円	0.0 %	120,194 千円	0.0 %					
	利益剰余金等		35,463 千円	▲9.9 %	34,530 千円	▲2.6 %	39,017 千円	13.0 %	39,622 千円	1.6 %	40,608 千円	2.5 %					
健全性指標	債務超過の有無 (G)	目標：無	無	-		無	-		無	-		無	-				
	自己資本比率 (G/A)	目標：50%以上	96.4%	0.4 %	96.6%	0.2 %	96.3%	▲0.3 %	96.7%	0.4 %	89.5%	▲7.4 %					
	流動比率 (B/D)	目標：150%以上	670.5%	3.7 %	700.8%	4.5 %	714.0%	1.9 %	697.3%	▲2.3 %	301.4%	▲56.8 %					
	固定比率 (C/G)	目標：100%以下	78.8%	1.7 %	79.0%	0.2 %	76.6%	▲3.0 %	76.3%	▲0.4 %	76.4%	0.1 %					
	借入金依存度 ((E+F)/A)	目標：前年比較減	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%						

(2) 損益計算書			(平成31年4月1日から令和2年3月31日)		(令和2年4月1日から令和3年3月31日)		(令和3年4月1日から令和4年3月31日)		(令和4年4月1日から令和5年3月31日)		(令和5年4月1日から令和6年3月31日)	
			平成31年度 第 期		令和2年度 第 期		令和3年度 第 期		令和4年度 第 期		令和5年度 第 期	
			決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減
営業収益			98,061 千円	▲5.8 %	93,262 千円	▲4.9 %	96,712 千円	3.7 %	105,516 千円	9.1 %	107,197 千円	1.6 %
営業費用			101,146 千円	0.1 %	94,196 千円	▲6.9 %	92,225 千円	▲2.1 %	104,912 千円	13.8 %	106,211 千円	1.2 %
	(うち売上原価) (対営業収益比率)		(0 千円)	(0.0%)	(0 千円)	(0.0%)	(0 千円)	(0.0%)	(0 千円)	(0.0%)	(0 千円)	(0.0%)
	(うち人件費) (対営業収益比率)		(35,261 千円)	(36.0%)	(35,418 千円)	(38.0%)	(35,751 千円)	(37.0%)	(36,038 千円)	(34.2%)	(37,936 千円)	(35.4%)
〈営業損益〉			▲ 3,085 千円	▲200.8 %	▲ 934 千円	69.7 %	4,487 千円	580.4 %	604 千円	▲86.5 %	986 千円	63.2 %
営業外損益			0 千円		0 千円		0 千円		0 千円		0 千円	
〈経常損益〉			▲ 3,085 千円	▲200.8 %	▲ 934 千円	69.7 %	4,487 千円	580.4 %	604 千円	▲86.5 %	986 千円	63.2 %
〈当期純損益〉			▲ 3,085 千円	▲200.8 %	▲ 934 千円	69.7 %	4,487 千円	580.4 %	604 千円	▲86.5 %	986 千円	63.2 %

〈評価分析〉	H30～R2の当期純損益が損失となっていたが、ビッグアリーナがワクチン接種会場になったことやコロナ禍における活動の再開に伴いR3は4,487千円の増益となった。しかし、引き続き利用者の増加や事業の見直しについて更なる工夫と検討が必要
--------	--

4. 市の財政的関与

区分	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
出資金	46,000 千円	46,000 千円	46,000 千円	46,000 千円	46,000 千円
負担金、補助及び交付金	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
指定管理料	62,886 千円	74,685 千円	65,938 千円	71,396 千円	77,676 千円
その他					
備考					

5. 課題等

項目			市所管課	団体
S W O T 分 析	内部分析	強み	・ 体育協会加盟団体はもとより、市内の様々なスポーツ団体の中心となり、連携しやすい体制が整っている。 ・ 借入金もなく財務状況は良好である。	
		弱み	・ 団体の自主事業における収益性が低い。 ・ 少子高齢化等により、各加盟団体が時代に合った運営へとシフトしていく必要がある。	
	外部分析	機会	・ 国際大会での代表チームや国内のプロチーム等の活躍により、スポーツへの注目が高まり、親しむ人が増える。 ・ R5ビッグアリーナのLED化、R6サッカー場を整備し、R9供用開始に向けて野球場の整備が進んでおり、施設への期待が高まっている。	
		脅威	・ 競技人口の減少が危惧される。	
事業面 （必要性、公益性、採算性、収益性など）			・ 市民を対象とした各種スポーツ教室の開催により、市民のスポーツ活動の活性化に貢献している。 ・ 公益性は高いが、採算性や収益性はない。	
財政面 （財務状況の現状や将来の見通しなど）			・ 市施設の指定管理業務が組織運営を支えており、事業実施による採算性の確保は非常に厳しい。 ・ イベント時の広告事業実施など、財源確保のための新たな取組みが必要である。	
施設・設備 （所有する建物や設備等の状況など）			・ 団体所有の土地・建物はなく、飛騨高山ビッグアリーナ（指定管理施設）に事務所を置いて活動をしている。	
組織・人員体制 （役員や従業員等の状況など）			・ 役員6名、理事18名、監事2名、評議員25名で構成されている。 ・ 事務局には13名の職員が在籍し、各施設の管理や体育協会の各種事業を実施している。	
公共施設等総合管理計画 （方針と今後の考え方）			・ 指定管理施設のうち八幡屋内ゲートボール場、松倉屋内ゲートボール場、中山公園管理事務所は中期で廃止となっている。	
自由記載 （団体や事業の今後のあり方や果たすべき役割について）				